

# 論語大学①

## 「民、信なくば立たず」

孔子の弟子の子貢が政治の要諦を尋ねた時、師である孔子が「それは食を豊かにし、兵を強くし、民から信頼されることだ」と言われた。子貢がさらに「食、兵、信の三つが揃ったら申し分ないでしょうが、国の状態からしてこの三つの中からどうしても止めにせねばならぬようなことがあったら、何から先に止めにすべきでしょうか。」と尋ねた。すると孔子は「兵(軍備)を去らん」と答えられた。

そこで、子貢はさらに「それでは食と信のうちどうしても断念しなくてはならないとすれば、どちらを止めにすべきでしょうか。」と尋ねると、孔子が言われることには「もちろん食を止めにする。食がなければ人は死ぬけれども、遅かれ早かれ、どうせ人は死んでいく。それは今も昔も変わりない。人に信頼がなくなったら国家はもろろん、人生そのものが成り立たないよ。」

この孔子の言葉は、今でも私たちがぎくりとさせる。確かに日本は敗戦後、兵を捨てた。平和憲法が成立した。し



▶孔子像 (『孔子行状図解より』)

かし、現在、防衛費は膨れ上がり、物が豊かになり、食は贅沢三昧に変化した。ただ、政治に対する不信任は日々つのりつつある。

現代の政治の要領は食を豊かにすることを第一とし、戦争が起これば滅亡と知りながら、軍備増強をしなくてはならぬほど、国家相互の不信任はつものる。信を守るために兵を去り、食を去るといふ日本民族の崇高な使命は消えかかっている。

郷土の大先輩、副島種臣卿の歌  
正しきをふみしむる国あらば  
亡びてもよし、必ず亡びず  
という心意気は、孔子の「信なくば立たず」の言葉そのままではないだろうか。

## 全国市議会議長会より表彰

### 【特別表彰20年】

中島慶子 議員  
中島國孝 議員



## 論語大学の掲載にあたって

かつて、私たちの郷土・多久は先人たちの努力により佐賀藩内はもちろん諸藩に先駆けて邑校・東原庠舎、そして聖廟を建立、この地に「文教の里」を作り上げました。多久の名は全国に広がり、「多久の百姓は鋤を置いて道を説く」「多久のスズメは論語をさえず」とさえ言われるほどでした。

しかし、その誇りもいつしか薄れてしまったようです。今一度、私たちは先人たちの血のにじむような努力を思い起こし、多久に住むものとして仁と礼を根本とする孔子の教えに耳を傾け、地域全体でその実行に努めるべきではないでしょうか。その願いを込め、元学校長、故不二見達朗氏が30数年前に多久市報に連載寄稿した論語解説を復刻します。



UD FONT  
by MORISAWA

見やすくて読みまちがえにくい  
エンバーチャルデザインソフト  
を採用しています。



環境に優しい  
VEGETABLE 植物油インクを  
使用しています。

